

施策の進捗管理シート

令和 7 年度

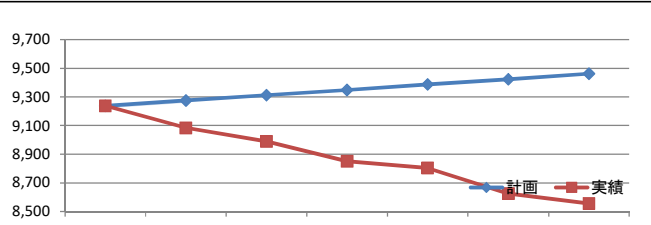
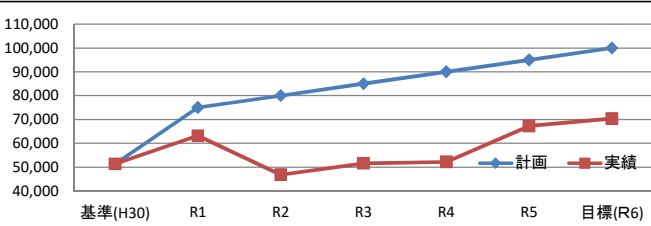
総合 体系 計画	分野	1	第 1 章	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	施策統括課	中心市街地振興室
	施策No.	3	施策名	賑わいあふれる中心市街地の活性化	課長名 (施策統括責任)	西 洋徳
	関係課	交通政策課 経済政策課 中心市街地振興室				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	中心市街地は、魅力的に整備され、多くの歩行者で賑わっている。
取組方針	中心市街地の既存の社会資本を活かした賑わい創出拠点の整備や多様な公共施設、商業施設等の立地促進など、都市機能のさらなる充実を図ります。また、訪れやすく気軽に街歩きを楽しめる回遊性の高い街づくりを推進するとともに、働く場としての業務機能の充実と街なか居住を推進します。さらに、街づくりに取り組む市民活動団体の育成や街なかの情報発信の充実に取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	市民、中心市街地居住者、中心市街地就労者					
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	中心市街地の歩行者通行量を増加させることにより街を活性化する。					
成果指標 A						単位
主要商店街通行量 (年間4日間 12箇所計測)						人
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績
51,349	75,000 63,150	80,000 46,780	85,000 51,607	90,000 52,168	95,000 67,248	100,000 70,356
成果指標 B						単位
中心市街地居住者数						人
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績
9,238	9,275 9,083	9,312 8,989	9,349 8,850	9,387 8,803	9,424 8,624	9,462 8,555



3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	51.4%	48.9%	↓
ある程度重要である	37.0%	39.6%	↑
あまり重要ではない	6.6%	7.4%	↑
重要ではない	0.9%	0.8%	↓
順位	15/36位	14/36位	↑

施策の満足度	前回	今回	
満足している	2.8%	2.5%	↓
どちらかといえば満足	31.4%	36.0%	↑
どちらかといえば不満	42.9%	41.9%	↓
不満である	13.5%	10.5%	↓
順位	35/36位	35/36位	→

4. これまでの取組・成果

- 公共施設の誘致（ハローワーク、国保連合会、商工ビル、NHK） ➡ 3,500人/日以上の上街者を創出
- テナントリーシング、出店者等への支援 ➡ 商機能の充実、新規事業者の育成、空き店舗や遊休不動産のRe-活用
- 賑わい拠点の整備・運営 ➡ 恒常的な催事の開催、新たなコミュニティ・活動者の醸成、来街者の増加（656広場:年間234回/36,000人超、わいわい!! コンテナ2：年間547回/66,000人超）
- 各種イベント事業（ライトファンタジー、バルーンフェスタ・サテライト、民間イベント支援） ➡ 街なかの賑わい創出、まちなかの消費喚起
- 公共空間整備や景観形成にかかる支援 ➡ 街なかや中央大通りの魅力向上、賑わい創出（4核エリア周辺：11件、中央大通り：9件）
- スマート技術の活用（サガマチ・ランデブーの構築・運用、多機能型情報メディア等の設置、運用） ➡ まちなかの消費喚起、有益な情報・データの取得・活用（人流データ等の取得、街なかレポートの作成・発信） など

5. 指標の達成状況に関する分析

- 主要商店街通行量は、計画期間途中、新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な減少もあり、最終目標を達成できなかったが（目標100,000人に対して70,356人）、一方で、コロナ禍以降は、毎年度、前年度の通行量を上回る実績で推移し、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した令和5年度にはコロナ禍前（令和元年度）を上回るなど、回復傾向にある。
- 中心市街地居住者数は、全体的な人口減少に加え、令和5年度までは中心市街地以外の比較的地価が低い区域への居住（住宅・住戸の建築）が進み、佐賀市全体や全国よりも減少率は大きかったが、令和6年度からは鈍化しており、単純に地価が低い区域への居住が進んでいるとは言えない状況となっている。

6. 今後の方向性（第3次佐賀市総合計画への反映など）

引き続き、魅力ある店舗やオフィス、居心地のよい訪れたい空間など都市機能の誘導を進め、まちなかで必要な機能がつながる便利でコンパクトな「まちなか」を形成する。

また、こうした取組により、まちなかのエリアの価値を高め、新たな投資を呼び込む好循環を創出していく。